

(12) 沖縄



沖縄地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 観光は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

前回からの主要変更点

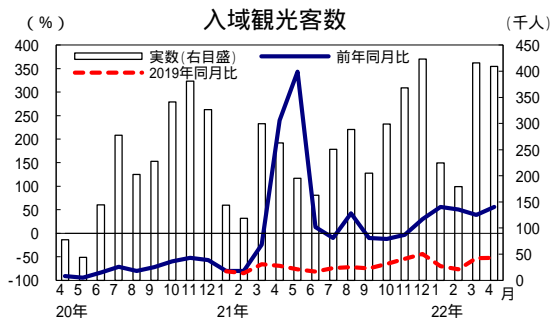
	前回(令和4年3月)	今回(令和4年6月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しの動きに弱さがみられる	持ち直しの動きがみられる	
観光	このところ弱含んでいる	持ち直しの動きがみられる	
個人消費	このところ持ち直しに足踏みがみられる	このところ持ち直しの動きがみられる	
雇用	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる	持ち直しの動きがみられる	

1. 観光の動向

観光は持ち直しの動きがみられる。

1 - 3月期の入域観光客数は、前年同期比45.8%増(2019年同月比66.0%減)となった。国内客は45.8%増となり、外国客は入国制限措置の継続等により皆減であった。月別でみると、1月は前年同月比56.0%増(2019年同月比70.2%減)、2月は同50.8%増(同76.8%減)、3月は同38.9%増(同53.0%減)となった。4月は同55.8%増(同52.0%減)となった。

1 - 3月期のホテル稼働率は、前年同期差8.0%pt増となった。



入域観光客数等の動向

	2021年 7-9月	2022年 10-12月	2022年 1-3月	2022年 4月
入域観光客数(千人)	744	1,091	820	409
(前年比、%)	5.1	4.0	45.8	55.8
ホテル稼働率(%)	25.0	41.1	30.2	
(前年差、%pt)	2.3	5.1	8.0	

- (備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光政策課調べ。
 2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。
 3. ホテル稼働率の前年差については、内閣府にて算出。

2. 個人消費の動向

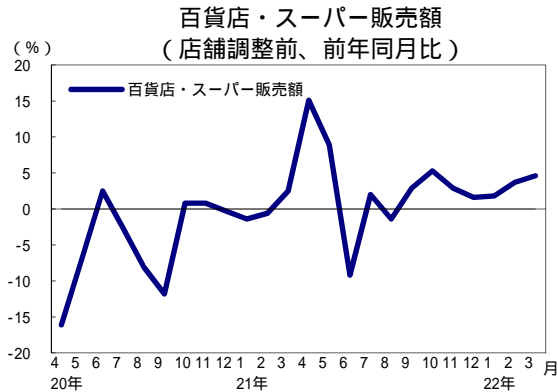
個人消費はこのところ持ち直しの動きがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1 - 3月期は前期比 1.9%増となった。月別にみると、1月は前月比 0.4%減、2月は同 0.9%増、3月は同 1.0%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、1 - 3月期は前年同期比 3.4%増となった。月別にみると、1月は前年同月比 1.8%増、2月は同 3.7%増、3月は同 4.6%増となった。



	2022年1-3月	2022年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	1.9	0.4	0.9	1.0
百貨店・スーパー(*2)	3.4	1.8	3.7	4.6
コンビニ(*2)	1.3	2.8	3.8	4.7
乗用車(*3)	23.0	26.8	28.5	16.6
(季節調整値)(*3)	13.0	17.1	10.0	17.4

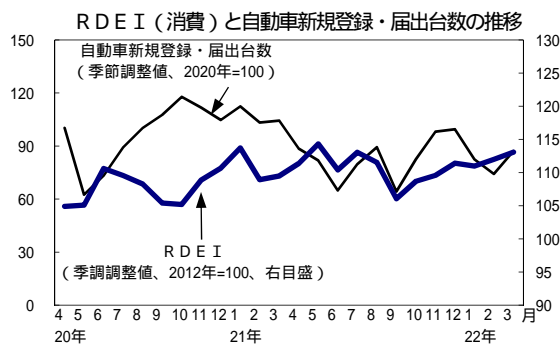
(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは経済産業省調べ(店舗調整前)

コンビニは日本銀行那覇支店調べ

3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))

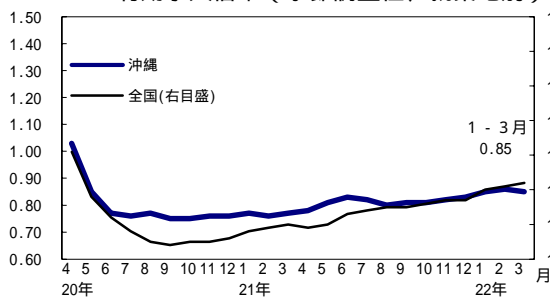


3. 雇用情勢

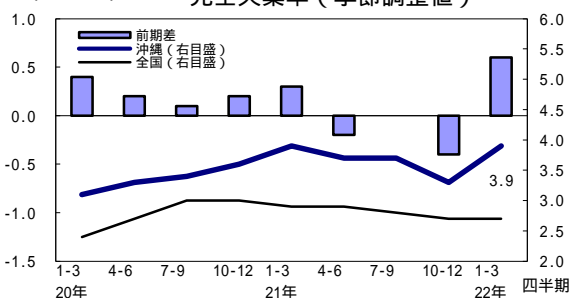
雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。

(倍) 有効求人倍率 (季節調整値、就業地別)



(ポイント) 完全失業率 (季節調整値) (%)



(備考) 沖縄県「労働力調査」の月次値を、内閣府にて四半期平均化。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和4年4月調査) 景気判断理由の概要

12. 沖縄

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	・最低だった1～2月と比べて宿泊客数は増えている。ただし、2019年比40%程度である。料飲部門は、昼食や会議は増えているが、宴会はほぼゼロである(観光型ホテル)。
		・まん延防止等重点措置が解除され約1か月、新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしていて、なかなか需要が伸びずゴールデンウィークの予約もかなり低調である(旅行代理店)。
		・沖縄県の新型コロナウイルス新規感染者数が増える気配がないことも関連しているのか、来客数が前年の70%となっており厳しい状況である(通信会社)。
	×	・新型コロナウイルスの感染状況がまだまだ多い地域であるが、消費マインドは高いとみられ、衣料品や服飾雑貨の動向が前年と比べ良くなっている(百貨店)。
	・引き続き来客数減少による厳しい状況が続いている(スーパー)。	
企業 動向 関連	・新型コロナウイルスの感染者は3か月前と比べ増加傾向にはあるが特に規制等はなく、経済活動は止まっていない。外食業界、観光業界も物量にさほど変化はなく維持している(輸送業)。	
	・受注、生産とも大きな変化はないが、原材料の価格高騰の影響で利益率が低下している(窯業土石業)。	
	・契約の兆しがやっとみえてきている(建設業)。	
雇用 関連	・沖縄を舞台にしたドラマの放映開始もあり、沖縄そば具材の売上が好調である。新規の問合せも増加している(食料品製造業)。	
	・新型コロナウイルス新規感染者数の増加を受けても、求人件数の減少は見受けられない(職業安定所)。	
その他の特徴 コメント		・大手企業を中心に各企業の新卒採用が始まっており、多くの求人が届いている。初めての企業からのアプローチもあり、需要の高さを実感している(学校[専門学校])。
		：道を歩く観光客が増えている。表情も明るくなっている(その他専門店[陶器])。
		：地元客は上から会食自粛を言い渡されているので、ビジネス街ではほとんど見掛けないが、観光客が増え始めており、徐々に予約が入り始めている(その他飲食[居酒屋])。
分野	判断	判断の理由
先行き	家計 動向 関連	・ここに来て、観光客が増えつつあり、県経済にとっては明るい兆しがみられる。そのようななかで、家計における節約疲れから消費意欲が改善するとみられる(スーパー)。
		・不動産価格の高止まり、建築資材価格の高騰もあり良くなる要因が見当たらない(住宅販売会社)。
	企業 動向 関連	・新型コロナウイルスの新規感染者数は増加しているがウィズコロナの状況が継続すると考えられるため、新型コロナウイルス発生前と比べると景気は良くはないが、特段変化はないと推察する(輸送業)。
		・いまだ収束がみえない新型コロナウイルスやロシアのウクライナ侵攻による経済的ダメージを危惧する状況はあるものの、沖縄の本土復帰50周年をビジネスチャンスと捉える県内企業も多いことから、多少なりとも販促活動が活発になるとみている(広告代理店)。
雇用 関連	・求人案件が増加しているが、人材不足でなかなかマッチングができない状況である(人材派遣会社)。	
その他の特徴 コメント		：前年は天候不順と新型コロナウイルスの影響で数値が悪化していた。その影響で今年の2～3か月後は反動増が予想される(家電量販店)。
		：観光、飲食関係の求人数は上向きの印象がある(職業安定所)。

(D I) 現状・先行き判断D I (沖縄) の推移 (季節調整値)

